支部だより　　**中部支部**
CPIJ Branch Letter　　**名古屋都心部の「まちづくり」活動**

ここ数年「元気な名古屋」を象徴するかのように名古屋駅前地区では超高層ビルの建設ラッシュが続き、駅前の風景が変貌を遂げている。そして、もう少し視野を広げて名古屋都心部全体を見渡せば、行政主導の都市計画に加えて、民間主導あるいは産学官連携の「まちづくり」活動も元気である。

［名古屋市都心部将来構想に見る都心部の全体像］

名古屋市都心部将来構想（名古屋市・2004 年）は、概ね 20 年後を目標として策定された都心部のまちづくりの指針で、「分野別将来ビジョン」や「地区別構想」を含む。土地利用ビジョンでは、まず、商業・業務機能が高度に集積している名古屋駅周辺地区及び栄周辺地区を「中心核」、それらをつなぐ広小路通・錦通地区を「連携軸」とする２核１軸の基本構造が提示されている。その上で、国際交流機能の導入等を目指すささしまライブ 24 地区及び個性ある商業機能の集積と都心居住機能の向上を目指す大須地区が「連携核」に、また、堀川、伏見通、大津通・久屋大通、桜通、若宮大通等の沿道が商業・業務機能等のさらなる集積を目指す「骨格軸」に位置付けられている。さらに、これらの核や軸を取り囲む市街地は「都心界隈」と名付けられ、そこでは個性豊かで魅力的な界隈の形成と回遊性の向上が目指されている。

［名古屋駅前地区街づくり協議会の設立］

2008 年３月、ミッドランドスクエアを管理する東和不動産を中心に、地区内の土地・建物を所有・管理する 30 社近くの企業が名古屋駅前地区街づくり協議会を設立し、地区全体の歩行者空間、車両交通流、景観、環境等の課題や企業を取り巻く多様な情勢に対処するための活動を開始した。名古屋でも、東京の大手町・丸の内・有楽町地区や日本橋地区のように、エリア・マネジメントが展開されようとしている。

［栄地区の安心・安全で快適なまちづくり］

栄地区では、内閣官房都市再生本部による都市再生プロジェクトを契機に、事業者、警察、行政機関等で構成される「魅力あふれる栄地区推進協議会」が設立され、2007 年には「栄地区の安心・安全で快適なまちづくり計画」が策定された。それ以降、繁華街の安心・安全に関わる啓発活動、悪質な勧誘行為の取締強化等が進められるとともに、栄地区の各エリア及び全体の将来像が改めて検討されている。

［広小路ルネサンスの検討］

名古屋駅前地区と栄地区を結ぶ広小路通のトランジット・モール化及び車線減・歩道拡幅を中心とする街路再整備「広小路ルネサンス」の検討が地元関係者をはじめとする市民と行政のパートナーシップにより進められている。「人と環境にやさしい都心づくり」、「都心のさらなる魅力向上」というコンセプトは多くの市民に支持されているようだが、車線減に対する反対意見は根強く、未だ解決に至っていない。

［錦二丁目のまちづくり］

広小路通・錦通地区と栄地区に隣接する錦二丁目は、戦後発展した繊維問屋街で、「都心界隈」の１つである。近年は、問屋の廃業が進み、空きビルや空地、駐車場が目立つ一方、魅力的な店舗、集合住宅、多様なスモール・ビジネスが徐々に進出している。2004 年には繊維問屋街の業者らが錦二丁目まちづくり連絡協議会を設立し、NPO 法人まちの縁側育み隊の支援の下、自らが策定したビジョンに基づき、16 街区のまちづくりを進めている。2008 年 5 月には、まちづくり活動の拠点「錦二丁目まちの会所」がオープンし、産官学連携で地区マスタープラン策定の作業が進められている。

現在、名古屋都心部では、この他にも様々な「まちづくり」活動が展開されている。それらの多くは名古屋都心部の各地区の個性と魅力を高めるものであり、今後ともこうした活動を応援したい。一方、都心部のスカイラインや動線を大きく変える再開発プロジェクトや都心部の交通に大きな影響を及ぼす施策等は、本来、当該地区を超えて都心部全体で検討されるべき内容である。地区毎の「まちづくり」活動が本格化した今こそ、それらの活動を踏まえて、都心部全体の土地利用、交通、都市デザイン、住宅、水と緑を包括的に扱う都心部計画を改めて策定する必要があるのかも知れない。

（文責：名古屋大学　村山顕人）